

林大の風

第47号 高知県立林業大学校

での伐木練習をはじめ、普段の実習から着用されることで慣れさせています。若い世代から安全装備への意識が広まることを期待しています。基礎課程に入校した研修生は、5月～6月にかけ安全かつ基礎的なチェンソーの扱い方を習得します。

基本的な水平切り、斜め切りから始まり、受け口、追い口切りまでを平場で学んだ後、15～35度の傾斜をつけた斜面設備に丸太を設置し、実際の現場に近い環境で同様に練習を積み重ねます。また、水平切りやつる幅等の全ての項目において



令和7年度 基礎課程入校生（11名）

数値基準を設けており、安全な伐木技術の定着



に向けた『見える化』を取り組んでいます。

一定の技術が定着し始める5月末からは、演習林での実践的な伐倒研修が始まります。

初めて立木を伐倒する基礎課程の研修生には、一年先輩の専攻課程の研修生と講師がともに現場で指導を行い、一つ一つの動作を確認しながら伐倒を行いました。現場での伐倒は、地形や木の重心、周辺の環境や風向き、さらには、かかり木の処理など、実習棟でのトレーニングで意識していること以外にも気を配らないといけないことが多く、一本の木を切

るということの大変さを実感したようでした。



ど、『即戦力』になるために習得するべき知識や技術が増えていきます。一つ一つ明確な目標を立て、一年間怪我なくしっかり学び、高知県の林業を支える技術員として力強く羽ばたいていくことを期待しています。

本校の基礎課程では、林業に携わる上
で必要な森林・林業等に関する知識や技術を習得し、林業現場において『即戦力』として活躍できる人材の育成に取り組んでいます。本県の林業の未来を担う研修生には、安全な作業を徹底するよう指導しており、特に装備については、イヤーマフとバイザーのついたヘルメット、チェンソーウエア、防護ズボン、チェンソーブーツおよび防振手袋を全員が装着するよう徹底しています。中でもチェンソーブーツは、履き慣れていないと疲労しやすく、怪我につながる恐れがあるため、斜面

令和8年度研修生募集

林業・木造建築を学ぶ、
プロに導く

高知県の林業、木材産業、木造建築の各分野で活躍できる人材を日本全国から受け入れます。

◇募集期間

一般(1回目):R7.8.25(月)～9.19(金)

そのほかの募集日程や募集要項等の詳細については下記のQRコードからご確認ください。

check!
→

